

口頭発表プログラム

■第1日目午後

3月27日(日)	Zoom 第2会場	Zoom 第3会場
15:40	201 座長 森山裕充 非親和性および不適応型病原細菌を接種したシロイヌナズナ葉における <i>CEP</i> 遺伝子の応答 Nur Fitrianti Aprilia¹・伊藤千晶¹・長谷川晴香²・松井英譲^{1,2}・能年義輝^{1,2}・山本幹博^{1,2}・一瀬勇規^{1,2}・白石友紀³・○豊田和弘^{1,2} (1岡大院環生・2岡大農・3岡山生物研)	301 座長 小松 健 バナナバンチー トップウイルス沖縄分離株のゲノムセグメント DNA-U3 の転写産物解析 ○佐野義孝¹・風間佑美¹・田巻千郷¹・高濱有沙^{1,3}・夏秋啓子² (1新潟大農・2東京農大・3横浜植防)
15:55	202 ROS 受容タンパク質は標的システインに依存して植物免疫応答を正に制御する ●日野雄太・岡本溪太・稲田太一・吉岡美樹・近藤竜彦・森 仁志・吉岡博文 (名大院農)	302 薬用植物ハシリドコロから見出された新規トバモウイルス ○一木 (植原) 珠樹¹・鵜家綾香²・花田 薫¹・菱田敦之^{3,4}・長岡 (中園) 栄子⁵・古平栄一⁶ (1農研機構遺資セ・2国際農研・3医薬健康研薬植セ・4東農大農・5筑波大・6北里大薬用植物園)
16:10	203 リンドウ葉枯病菌による全身的な感受性誘導機構の解明 ○館田知佳^{1,2}・清水元樹¹・John Jewish A Dominguez¹・岩井摩利¹・小原和恵¹・西原昌宏¹・藤崎恒喜¹ (1岩手生工研・2奈良先端大)	303 コムギに感染するベータフレキシ科の新規 RNA ウィルス ○近藤秀樹¹・吉田直人²・兵頭 究¹・久野 裕¹・玉田哲男^{1,2}・鈴木信弘¹ (1岡山大植物研・2ホクレン)
16:25	204 ベンサミアナの疫病菌抵抗性に必須な NbSAR8.2m は抗菌性の分泌型ペプチドである ○今野沙弥香¹・近藤洋平¹・柴田裕介¹・近藤竜彦¹・田中愛子¹・佐藤育男¹・千葉壮太郎¹・松林嘉克²・川北一人¹・竹本大吾¹ (1名大院生農・2名大院理)	304 神奈川県における tomato zonate spot orthospovirus によるピーマンえそ症状の発生 ○島田涼子・岡本昌広 (神奈川農技セ)
16:40	205 牧草共生糸状菌 <i>Epichloë festucae</i> の共生関連遺伝子 <i>pro41</i> は共生時特異的な発現パターンを制御する ●神山詩織¹・上坂一馬²・佐藤育男¹・千葉壮太郎¹・田中愛子¹・竹本大吾¹ (1名大院生農・2名大遺伝子)	305 輪紋症状を呈するヤツデより見出された新規オルソトスボウイルスの全ゲノム解析 ●鈴木拓海・北沢優悟・二條貴通・西川雅展・松本旺樹・山本桐也・鈴木誠人・前島健作・難波成任・山次康幸 (東大院農)

Zoom 第4会場	Zoom 第5会場	Zoom 第6会場
401 座長 川口 章 秋田県で発生したネギ (<i>Allium fistulosum</i> L.) 葉身基部の腐敗症状とその病原細菌について ○達 瑞枝¹・齋藤隆明²・本庄 求² (¹農研機構東北農研・²秋田農試) 402 日本国内で分離したアブラナ科植物に病原性を示す <i>Xanthomonas campestris</i> に関するタイプIIIエフェクター遺伝子の構成解析 ○木戸一孝¹・瀧川雄一² (¹鳥取大農・²静岡大院農) 403 <i>Acidovorax valerianellae</i> および類似細菌の系統分類について ●吉村拓真・瀧川雄一 (静岡大院農) 404 座長 達 瑞枝 <i>Pectobacterium wasabiae</i> と <i>P. carotovorum</i> subsp. <i>brasiliense</i> によるジャガイモ軟腐病の発生 (病原追加) ○藤本岳人¹・青野桂之²・中山尊登³・大木健広³ (¹農研機構植防研・²農研機構種管セ中央・³農研機構北農研) 405 モモ圃場周辺に自生する雑草へのモモ胴枯細菌病菌 (急性枯死症) <i>Dickeya dadantii</i> の病原性及び検出状況 ○桐野菜美子・苧坂大樹・川上敦子 (岡山農研)	501 座長 伊代住浩幸 リアルタイム PCR による土壌からのタマネギと病菌卵胞子のモニタリング ○西村文宏^{1,6}・藤澤 遥¹・森 充隆¹・中島千晴²・川口真穂²・中西 充¹・岩本 豊³・三室元気⁴・中村吉秀⁵・池田健一⁶ (¹香川農試・²三重大生資・³兵庫農技総セ・⁴富山農総セ農研・⁵長崎防除所・⁶神大院農) 502 花粉採取用ニホンナシ品種の花粉における汚染状況について ●佐竹洋樹¹・谷尾進司²・竹村圭弘²・大崎久美子² (¹鳥取大院持続性社会・²鳥取大農) 503 ドローンを活用したマルチスペクトルカメラの空撮画像によるナバナ根こぶ病診断の可能性 ○久保周子¹・高野幸成²・河名利幸¹ (¹千葉農林総研暖地・²千葉農林総研) 504 ドローン空撮画像を利用したレンコン腐敗病危険度マップの作成 ○溝部信二¹・岩谷 潔²・西見勝臣¹・小田裕太¹ (¹山口農林総技セ・²山口大農) 505 <i>Rhizobium vitis</i> VAR03-1 株のブドウ根頭がんしゅ病拮抗能を司るテイロシン rhizoviticin の機能解析 ○土田菜月¹・石井智也²・渡邊 恵²・齊藤 昌²・包 継源²・ヘメルダニアルシメリー²・佐藤繭子³・豊岡公德³・石濱伸明³・白須 賢³・豊田 敦⁴・松原岳大⁵・松井英謙^{1,2}・山本幹博^{1,2}・豊田和弘^{1,2}・一瀬勇規^{1,2}・川口 章⁶・能年義輝^{1,2} (¹岡山農大・²岡山大院環境生命・³理研 CSRS・⁴遺伝研・⁵岡山大バイオバンク・⁶農研機構西日本農研)	

■第1日目午後

3月27日(日)	Zoom 第2会場	Zoom 第3会場
17:10	206 座長 藤崎恒喜 構造的に異なる2種類のジャガイモ疫病菌 MAMP が植物の異なる免疫応答を誘導する Mohammad Shahjahan Monjil¹・加藤大明²・松田健太郎¹・鈴木捺美¹・天広志保¹・Maurizio Camagna¹・鈴木孝征³・田中愛子¹・寺内良平^{2,4}・佐藤育男¹・千葉壮太郎¹・川北一人¹・小鹿一¹・○竹本大吾¹ (1名大院生農・2京大院農・3中部大応生・4岩手生工研)	306 座長 近藤秀樹 センキュウに感染するウイルスの遺伝的多様性 ●岩井一真¹・今 辰哉¹・阿部遥貴¹・本間大士¹・河澄尚輝¹・川上寛子¹・河下美都里²・櫻井美希²・藤 晋一¹ (1秋田県大生資・2ツムラ)
17:25	207 植物の病原菌由来 9-メチルスフィンゴイド塩基の認識機構の解明 ○加藤大明¹・根本圭一郎²・清水元樹²・阿部 陽²・浅井秀太³・石濱伸明³・松岡聖二³・大門高明¹・小鹿一⁴・川北一人⁴・小内 清¹・白須賢³・吉田 稔³・石浦正寛⁵・竹本大吾⁴・高野義孝¹・寺内良平^{1,2} (1京大院農・2岩手生工研・3理研 CSRS・4名大院生農・5名大遺伝子)	307 オオバコモザイクウイルス各種分離株のオオバコおよびユリへの感染性 ●大川あずさ¹・棚井偲乃¹・阿部遥貴²・中村奈輔³・山下一夫⁴・一木 (植原) 珠樹⁵・花田 薫⁵・湊 菜未³・藤 晋一²・小松 健¹ (1農工大院農・2秋田県立大生資・3新潟大農・4福地にんにく R&S・5農研機構遺資セ)
17:40	208 トマト根腐萎凋病菌の分泌性タンパク質 FoMC69 は厚膜胞子を介した感染過程に関与する ○佐々木一紀・伊藤由后・伊藤真一 (山口大農)	308 江戸東京野菜ウドのモザイク症状株から分離された新たな植物ウイルス ●山村ゆり奈¹・久保田まや²・坂本彩³・津田新哉¹ (1法政大学植物医科・2東京農総研・3東京島しょ農水セ)
17:55	209 Rocaglate を生合成するアグライア属植物に寄生する糸状菌は変異型 eIF4A を利用して生存する ○熊倉直祐¹・チェン ミンミン^{2,3}・ミューラーライアン⁴・七野悠一²・西本まどか⁵・ガン パメラ¹・インゴリア ニコラス⁴・白須 賢¹・伊藤拓宏⁵・岩崎信太郎^{2,3} (1理研 CSRS・2理研 CPR・3東大院新領域・4UC Berkeley・5理研 BDR)	309 Analysis of the viral particle-associated proteins of a novel mycovirus, Diaporthe alternavirus 1 (DAV1) ●Wu, C-F.¹, Ito, Y.², Sasaki, N.², Ogawara, T.³, Moriyama, H.², and Okada, R.³ (1農工大院連農, 2農工大院農, 3茨城農総園研)
18:10	210 寄生型の <i>Colletotrichum tofieldiae</i> は高温条件ではシロイヌナズナの植物生長を促す ○晝間 敬 (東大院総合)	310 ベミデタッチ® (アセチル化グリセリド乳剤) はタバココナジラミによるトマト退緑ウイルス (<i>Tomato chlorosis virus</i>: ToCV) 媒介を抑制する ○森戸 梓・加嶋崇之・森光太郎・佐野真喜子・三谷 滋 (石原産業 (株))
18:25	211 リン欠乏土壌に自生するアブラナ科植物から単離された <i>Colletotrichum</i> 属菌によるシロイヌナズナの生長促進作用 ●岩附利英¹・橋本 将¹・Yuniar Devi Utami¹・田中健太²・晝間 敬¹ (1東大院総合・2筑波大学山岳センター)	

Zoom 第4会場	Zoom 第5会場	Zoom 第6会場
406 トマトかいよう病の発生拡大シミュレーションモデルの検討 ○川口 章・北林奨也（農研機構西農研）	506 座長 峯 彰 ブドウ根頭がんしゅ病拮抗細菌を用いた片利共生細菌のシロイヌナズナ根圏への定着能の解析 包 継源¹・ヘメルダニアルシメリー¹・土田菜月²・渡邊 恵¹・松井英譲^{1,2}・山本幹博^{1,2}・豊田和弘^{1,2}・一瀬勇規^{1,2}・川口 章³・○能年義輝^{1,2}（¹岡山大院環境生命・²岡山大農・³農研機構西日本農研）	
407 アカザ科雑草がジャガイモ黒あし病菌の伝染源になる可能性について ○中山尊登¹・藤本岳人²・青野桂之³・大木健広¹（¹農研機構北農研・²農研機構植防研・³農研機構種管C中央）	507 Suppression of bacterial root growth inhibition by <i>Colletotrichum tofieldiae</i> in <i>Arabidopsis thaliana</i> ○Utami, Y.D.¹, Cosentino, S.², Anda, M.², Iwasaki, W.², and Hiruma, K.¹（¹東大院総合・²東大院新領域）	
408 座長 大西浩平 タバコ野火病菌の effector J の機能解析 檜原沙知¹・西村隆史¹・能年義輝¹・山本幹博¹・豊田和弘¹・中神弘史²・一瀬勇規¹・○松井英譲¹（¹岡大院環生・²MPIPZ）	508 トリコデルマトロピリデ SKT-1 剤（TA）は温湯種子消毒による稲もみ枯細菌病の助長を軽減する ○内橋嘉一・松本純一・神頭武嗣（兵庫農技総セ）	
409 タバコ野火病菌の Type III エフェクターが標的とする宿主因子の網羅的同定にむけて ●黒江香那¹・檜原沙知²・西村隆史²・能年義輝²・山本幹博²・豊田和弘²・中神弘史³・一瀬勇規²・松井英譲²（¹岡山大農・²岡大院環生・³MPIPZ）	509 種子内生細菌 <i>Pantoea dispersa</i> BB1 株はイネのもみ枯細菌病の発症を抑制する ○秋本千春・香西雄介（農研機構生物研）	
410 マンゴージンジャー葉内における <i>Ralstonia pseudosolanacearum</i> レース 4 の移行抑制 ○有馬ひかる¹・飯山和弘¹・矢野和孝²・土屋健一¹・堀田光生³・古屋成人¹（¹九州大院農・²高知農技セ・³農研機構農環研）	510 オリーブウロコタケ由来揮発性物質における植物病原菌に対する抗菌活性 ●宮地大輔・濱本恵実里・石原 亨・大崎久美子（鳥大農）	
	511 カンキツ緑かび病のバイオコントロールに利用できる拮抗菌の探索 ●須賀友洋¹・宇佐見俊行²・宍戸雅宏²（¹千葉大園・²千葉大院園）	

■第2日目午前

3月28日(月)	Zoom 第2会場	Zoom 第3会場
9:00	212 座長 高野義孝 アブラナ科炭疽病菌エフェクター ChEC91 の立体構造解析 ○高原浩之・小椋賢治 (石川県立大)	311 座長 前島健作 カボチャモザイクウイルスおよびパパ イヤ輪点ウイルスの組換え外被タンパ ク質に対するポリクローナル抗体の作 製 ○岡田 亮・秋元拓己・小河原孝司 (茨城農総セ園研)
9:15	213 ウリ類炭疽病菌のメラニン合成ポリケ チド合成酵素 Pks1 は付着器形成時に 凝集体を形成する ○久保康之 ¹ ・山下紗苗 ¹ ・前島孝年 司 ² ・阪本萌乃佳 ² ・小川真実 ² ・小玉 紗代 ¹ ・永野真吾 ³ ・加藤直樹 ¹ (¹ 摂大農・ ² 京府大生命環境・ ³ 鳥大工)	312 パパイヤ輪点ウイルス (PRSV) 検出 用イムノクロマトの開発 ○杉山茂大 ¹ ・綱 美香 ¹ ・岡田 亮 ² ・ 秋元拓己 ² ・小河原孝司 ² ・田中智樹 ¹ (¹ (株) ニッポン・ ² 茨城農総セ園研)
9:30	214 ウリ類炭疽病菌のキナーゼ遺伝子 PPK1 は植物表層成分認識を介した付 着器形成に関与する ○小玉紗代 ¹ ・山下紗苗 ¹ ・西内 巧 ² ・ 久保康之 ¹ (¹ 摂南大農・ ² 金沢大研究 基盤)	313 tomato brown rugose fruit virus のトマ トの花芽での局在性および種子伝染率 松下陽介 ¹ ・○久保田健嗣 ¹ ・大崎康 平 ² ・篠坂 響 ² ・石橋和大 ³ ・富高保 弘 ¹ (¹ 農研機構植防研・ ² 農研機構種 苗セ・ ³ 農研機構生物研)
9:45	215 <i>Alternaria alternata</i> の ACT 毒素生産 に関与する未知な ORF の機能解析 ●有田佳司 ¹ ・津木悠吾 ¹ ・中島健登 ¹ ・ 田中佐和 ¹ ・増中 章 ¹ ・宮本蓉子 ¹ ・ 大谷耕平 ¹ ・柘植尚志 ² ・山本幹博 ³ ・ 望月 進 ¹ ・市村和也 ¹ ・五味剣二 ¹ ・ 秋光和也 ¹ (¹ 香川大学農・ ² 中部大応生・ ³ 岡山大農)	314 Tomato brown rugose fruit virus を検 出するためのリアルタイムおよびコン ベンショナル RT-PCR 法の開発 ○富高保弘・石橋和大・篠坂 響・久 保田健嗣・松下陽介・大崎康平 (農研 機構)
10:00	216 <i>Bipolaris maydis</i> における ECM outer layer 欠損変異株の原因遺伝子の同定 ●佐波雅史・辻 健也・吉見 啓・本 田与一・河内護之・田中千尋 (京大院 農)	315 トマト種子からの tomato brown rugose fruit virus の検出法の開発 ○篠坂 響 ¹ ・石橋和大 ² ・富高保弘 ³ ・ 松下陽介 ³ ・久保田健嗣 ³ ・大崎康平 ¹ (¹ 農研機構種苗セ・ ² 農研機構生物研・ ³ 農研機構植防研)
10:15		
10:30	217 座長 深田史美 萎黄病耐病性品種 ‘アスカウェイブ’ を侵すイチゴ萎黄病菌の病原性、分子 系統解析および SIX 遺伝子の検出 ●中島 賢 ¹ ・山城 都 ² ・山崎周一 郎 ³ ・中山喜一 ¹ ・廣岡裕吏 ¹ (¹ 法政大 植物医科・ ² 栃木農試・ ³ 栃木県庁)	316 座長 関根健太郎 静岡県におけるトマト黄化病の発生状 況 ○丸山美咲 ¹ ・松田健太郎 ² (¹ 静岡防 除所・ ² 静岡県庁)

Zoom 第4会場	Zoom 第5会場	Zoom 第6会場
411 青枯病菌レース 4 特異的なポリガラクトノナーゼと病原力との関連 ●重黒木菜月¹・飯山和弘¹・日下部 暖¹・今村桃華¹・堀田光生²・矢野和孝³・土屋健一¹・古屋成人¹ (九州大院農・²農研機構農環研・³高知農技セ) 412 シイタケ腐敗病を引き起こす <i>Ewingella americana</i> 由来キチナーゼの病原性 ●田中千聖¹・宮原満帆¹・梶川揚申¹・五十君静信¹・篠原弘亮²・富田 駿³・横田健治¹ (東京農大農化・²東京農大農・³産総研生物プロセス)	512 座長 秋本千春 ノムシタケ科子囊菌類 <i>Leptobacillium symbioticum</i> の培養ろ液によるダイズさび病抑制効果 ●名田卓磨¹・岡根 泉² (筑波大院生命地球・²筑波大 MiCS) 513 溶菌性バクテリオファージの土壌処理によるダイコン軟腐病の抑制効果の検証 ●Quynh Tran Thi・岩井優介・瀧川雄一・平田久笑 (静大農)	601 座長 山名利一 <i>Fusarium vanettenii</i> によるスペインカンゾウ株枯病 (新称) ○佐藤豊三¹・吉永実記¹・埋橋志穂美²・五十嵐元子³・芝野真喜雄⁴ (新潟食農大・²農研機構遺資研・³医薬健康研薬植セ・⁴大阪医薬大薬) 602 セルリーに発生した <i>Phytophthora tentaculata</i> による疫病 (新称) ○藤永真史¹・植松清次^{2,3} (長野野花試・²東京農工大・³玉川大)
413 座長 飯山和弘 青枯病菌 OE1-1 株のシデロフォア活性への 2 価鉄の影響 ●寺澤夕貴¹・館田宇宙¹・竹村知夏¹・木場章範¹・大西浩平¹・甲斐建次²・曳地康史¹ (高知大農林海洋・²阪府大院生命環境) 414 青枯病菌 OE1-1 株のクオラムセンシングへの 2 価鉄の影響 ●館田宇宙¹・寺澤夕貴¹・竹村知夏¹・木場章範¹・大西浩平¹・甲斐建次²・曳地康史¹ (高知大農林海洋・²阪府大院生命環境)	514 トマト萎凋病菌が産生する萎凋毒素フザリン酸を分解する微生物の探索と機能解析 ●寺元 茜・澤田祐次・田川克滉・鈴木 萌・竹本大吾・千葉壮太郎・佐藤育男 (名大院農) 515 灰色かび病菌接種バラ切り花の複数本に対する電解次亜塩素酸水のドライミスト処理効果 ●高川祐輔¹・二階堂勝²・濱谷希人²・副島隆志²・田中美順²・西沢 隆¹・小林 隆¹・長谷 修¹ (山形大農・²森永乳業 (株))	603 <i>Peronospora grisea</i> によるヘーベと病 (新称) の発生 ○菅原 敬¹・佐藤 衛²・埋橋志穂美² (山形最上農普・²農研機構資源研) 604 <i>Fusarium asiaticum</i> によるカボチャのフザリウム果実腐敗病 (病原追加) と開花期感染の可能性について ○川上 顕¹・満留克俊²・吉田みどり¹・嘉見大助¹・杉山慶太¹ (農研機構北農研・²鹿児島県農開セ)
415 Two homologous response regulator genes, <i>hrpG</i> and <i>prhG</i>, in the <i>hrp</i> regulon are differently regulated in <i>Ralstonia solanacearum</i> ○Ohnishi, K.¹, Zhu, C.², Cao, Y.², Kadotiku, S.¹, Kiba, A.¹, and Hikichi, Y.¹ (高知大農林海洋・²愛媛大院連合農学)	516 植物保護細菌によるダイズ茎疫病の防除効果に対するグルタミン酸の影響 ○竹内香純・姜 昌杰・小木曾真佐代・瀬尾茂美 (農研機構生物研)	605 サツマイモ腐敗を引き起こす貯蔵病害の 7 種新病原 ○鬼頭英樹¹・田中貴章²・中村宣貴³・辻 朗²・稲津康弘³・小塚明彦²・村上英広² (農研機構資源研・²小島プレス工業 (株)・³農研機構食品研)
416 座長 堀田光生 青枯病菌 phylotype I および IV を含む本邦の青枯病菌株に対するジャガイモにおける抵抗性品種・系統の探索 ○波部一平 (長崎農技セ)	517 座長 犬飼 剛 ネギ黒腐菌核病罹病残渣処理における菌核の不活性化促進に関わる要因の解析 ○伊代住浩幸・高橋冬実・金原菜見 (静岡農林研)	606 座長 大木健広 アズキ落葉病菌検出用の新規 LAMP プライマーセットの開発 ●小澤俊文・近藤則夫・秋野聖之 (北大院農)

■第2日目午前

3月28日(月)	Zoom 第2会場	Zoom 第3会場
10:45	218 Analysis on expression profiles of <i>Botrytis cinerea</i> genes induced by phytoalexins from Solanaceae, Fabaceae and Brassicaceae ●Bulasag, A.S.¹, Kuroyanagi, T.¹, Ojika, M.¹, Suzuki, T.², Tanaka, A.¹, Sato, I.¹, Chiba, S.¹, and Takemoto, D.¹ (¹Grad. Sch. Bioagr. Sci., Nagoya Univ., ²Coll. Biosci. Biotech., Chubu Univ.)	317 メロン黄化えそウイルス強毒株と弱毒株の識別法の開発 ○林 一沙¹・沖 友香¹・下元祥史¹・富高保弘² (¹高知農技セ・²農研機構植防研)
11:00	219 トウモロコシ黒穂病菌が分泌する細胞外小胞の動態と内容物の解析 芳本 玲・石田史子・山口美幸・田中智佳子・○田中茂幸 (摂南大農)	318 Deep learning を用いた small RNA-seq データの解析による小麦に黄化萎縮症状を引き起こすウイルスの探索 ●森 健人¹・阿出川さとみ²・相馬ちひろ²・鈴木孝子²・中原健二³ (¹北大農・²道総研中央農試・³北大院農)
11:15	220 エンドウ萎凋病菌の比較ゲノム解析と RNA-seq によるエフェクター候補遺伝子の抽出 ●小寺俊丞¹・齊藤大幹²・小松 健^{1,2}・有江 力^{1,2} (¹農工大院連農・²農工大院農)	319 シソサビダニによるシソモザイクウイルス媒介のリーフディスクを用いた簡易媒介実験系の開発 ●新井亜美¹・千秋祐也²・久保田健嗣²・津田新哉¹ (¹法政大学植物医科・²農研機構植防研)
11:30	221 ペノミル処理によって生じたミツバ株枯病菌の病原性低下株 ●戸畑幸治¹・加藤有紀子²・小寺俊丞³・齊藤大幹²・小松 健^{1,2,3}・有江 力^{1,2,3} (¹農工大農・²農工大院農・³農工大院連農)	320 バラ黄斑モザイクウイルスの媒介生物の探索 ●石崎駿卓・津田新哉 (法政大植医)
11:45	222 トマト萎凋病菌の系統分岐群間のアクセサリー染色体領域の比較 ○齊藤大幹¹・小寺俊丞²・浅井秀太³・小松 健^{1,2}・有江 力^{1,2} (¹農工大院農・²農工大院連農・³理研 CSRS)	

Zoom 第4会場	Zoom 第5会場	Zoom 第6会場
417 高温と高湿度は細菌の栄養獲得に関わる遺伝子発現に影響を与え病原性を高める ○峯彰^{1,2}・松本 歩³・石川真太郎⁴・竹田篤史⁵・三瀬和之¹・高野義孝¹ (¹京大院農・²JST さきがけ・³立命館大総研・⁴京大農・⁵立命館大生命)	518 温湯処理機と微酸性電解次亜塩素酸水を組み合わせた浸種中のイネばか苗病感染抑制 ○森谷真紀子¹・二階堂勝²・濱谷希人²・小関彩恵子¹・錦 秀人¹ (¹山形農総研セ・²森永乳業 (株))	607 LAMP 法および PCR 法によるトルコギキョウ斑点病菌 <i>Pseudocercospora nepheloides</i> の検出技術の開発 ○酒井美沙¹・高橋真秀¹・久保周子¹・中島千晴²・横山とも子¹ (¹千葉農林総研・²三重大院生資)
418 青枯病菌 OE1-1 株のトマト植物の根の導管への感染過程と病原力に関する解剖学的解析 ○井上加奈子¹・瀬沼和香奈²・竹村知夏²・大西浩平²・木場章範²・甲斐建次³・前田英史⁴・曳地康史² (¹阪大 UHVEM・²高知大農林海洋・³阪府大院生命環境・⁴龍大先端理工)	519 WRF モデルを用いたタマネギべと病感染警告システムと感染推定モデルとの適合性 ○井手洋一¹・古田明子¹・柴田昇平² (¹佐賀農業セ・²農業機構九沖農研)	608 <i>Sclerotium cepivorum</i> を特異的に検出するプライマーの開発 ○片岡善仁¹・宮田伸一² (¹横浜植木(株)・²農研機構植防研)
419 Identification of plant signals that induce the <i>hrp</i> regulon in the plant pathogen <i>Ralstonia solanacearum</i> ●Cao, Y.¹, Kiba, A.², Hikichi, Y.², and Ohnishi, K.² (¹愛媛大学院連合農学・²高知大農)	520 千葉県の秋冬どりニンジンにおける乾腐病に対する品種間差 ○青木 由・高橋真秀・大谷 徹 (千葉農林総研)	609 FDA-Array 法によるニンニクウイルスの野外診断 ○古田和義¹・佐々木純²・増田 税³ (¹ホクサン・²道総研花野セ・³北大院農)
420 座長 石賀康博 ファイトプラズマの葉化誘導因子ファイトロジェンと2種類の宿主因子による三者複合体の検出 ○松本旺樹¹・北沢優悟¹・岩渕 望¹・鯉沼宏章¹・鈴木誠人¹・徳田遼佑¹・前島健作¹・大島研郎²・難波成任¹・山次康幸¹ (¹東大院農・²法政大植医)	521 ネコブセンチュウエフェクターによる植物免疫抑制機構の解析 ○佐藤一輝¹・門田康弘¹・Pamela Gan¹・植原健人²・M. Shahid Mukhtar³・白須 賢^{1,4} (¹理研 CSRS・²農研機構中農研・³アラバマ大バーミンガム校・⁴東京大)	610 ユニバーサルプライマーを用いたトバモウイルスのワンステップ RT-PCR による診断可能性の検証 ○舛本将明¹・久保田健嗣² (¹熊本農研セ・²農研機構植防研)
421 ファイトロジェンは標的宿主因子のユビキチン非依存的なプロテアソーム分解により葉化を誘導する ○北沢優悟¹・岩渕 望¹・松本旺樹¹・鈴木誠人¹・笹野百花¹・前島健作¹・大島研郎²・難波成任¹・山次康幸¹ (¹東大院農・²法政大植医)	522 イネ免疫を制御する RALF ファミリーペプチドの機能解析 ○深田史美¹・Guo Ting²・Wanqing Wang¹・西村秀希¹・小野奈津子¹・水口洋平³・豊田 敦³・古田智敬¹・河野洋治¹ (¹岡山大植物研・²中国科学院・³遺伝研)	

■第2日目午後

3月28日(月)	Zoom 第2会場	Zoom 第3会場
13:00	223 座長 池田健一 ダイコン萎黄病菌の病原性染色体の同定 ○浅井秀太・高橋一平・鮎川 侑・増田幸子・白須 賢（理研 CSRS）	321 座長 煉谷裕太郎 日本産カブモザイクウイルスにおける組換え体の拡散とその年代 ●川久保修佑・大島一里（佐賀大農）
13:15	224 ウリ類炭疽病菌感染における殺生段階成立に必要な病原性因子の探索 ●米原克磨 ^{1,2} ・熊倉直祐 ¹ ・Pamela Gan ¹ ・白須 賢 ^{1,2} （ ¹ 理研 CSRS・ ² 東大院理）	322 パパイヤ輪点ウイルス（PRSV）のアブラムシ伝搬に対するズッキーニ黄斑モザイクウイルス（ZYMV）およびスイカモザイクウイルス（WMV）の干渉作用 ○門馬悠介・徳丸晋虫（京都農技セ）
13:30	225 半身萎凋病菌のトマトに対する病原性を決定するゲノム領域 ●荒矢 恵・宇佐見俊行（千葉大院園）	323 ナス科雑草におけるジャガイモやせいもウイルスの種子伝染および感染分布 ○松下陽介・久保田健嗣（農研機構植防研）
13:45	226 半身萎凋病菌のピーマンに対する病原性を決定するゲノム領域 ●張 寧寧・孫 曉雨・宇佐見俊行（千葉大院園）	324 宿主液胞型 H ⁺ -ATPase のハイジャックによるダイアンソウイルスの増殖戦略 ○兵頭 究・首藤丘宇・近藤秀樹・鈴木信弘（岡山大植物研）
14:00	227 病原性遺伝子探索を目的とした <i>Verticillium alfalfae</i> と <i>V. dahliae</i> の種間交雑の試み ●和田拓也 ¹ ・佐々木葉南 ² ・吉田先利 ² ・宇佐見俊行 ¹ （ ¹ 千葉大院園・ ² 千葉大院園）	325 オオバコモザイクウイルス（PIAMV）複製酵素の膜局在性ドメインと相互作用する dynamin は複製に関与する ●進士陽香 ¹ ・佐々木信光 ² ・伊藤喜之 ³ ・久田美貴 ³ ・有江 力 ² ・小松健 ² （ ¹ 農工大農・ ² 農工大農・ ³ 農工大スナップ）
14:15		
14:30	228 座長 中馬いづみ <i>Verticillium longisporum</i> と他の <i>Verticillium</i> 属菌との種間交雑および染色体脱落の誘導 ●吉田先利 ¹ ・佐々木葉南 ¹ ・和田拓也 ² ・宇佐見俊行 ² （ ¹ 千葉大院園・ ² 千葉大院園）	326 座長 兵頭 究 キュウリモザイクウイルス CP 発現 PVX ベクターのアグロインフェクションを利用した R 遺伝子抵抗性同期的誘導系 ○宮下脩平 ¹ ・狩野 凱 ¹ ・石橋和大 ² ・安藤杉尋 ¹ ・高橋英樹 ¹ （ ¹ 東北大農・ ² 農研機構）

Zoom 第4会場	Zoom 第5会場	Zoom 第6会場
422 ファイロジェンは宿主因子の保存領域を相互作用の標的とする ●鈴木誠人¹・北沢優悟¹・岩瀬 望¹・松本旺樹¹・山本桐也¹・前島健作¹・大島研郎²・難波成任¹・山次康幸¹ (¹東大院農・²法政大植医)	523 座長 竹内香純 水稻品種コシヒカリのイネいもち病高度罹病性と <i>OsPR1b</i> におけるトランスポゾン挿入変異との関係 ●石原健人・加藤美弥子・犬飼 剛 (北大院農)	611 座長 日恵野綾香 春季の薬剤散布によるタマネギべと病罹病葉中の卵胞子形成抑制 ○古田明子¹・井手洋一¹・草場基章² (¹佐賀農業セ・²佐賀大農)
423 座長 北沢優悟 キク緑化病ファイトプラズマの偽遺伝子 <i>PHYL_B</i> の祖先遺伝子の復元 ●今川 基¹・遠藤 藍¹・前島健作²・山次康幸²・大島研郎¹ (¹法政大植医・²東大院農)	524 根部特異的な <i>CLE3</i> 発現がシロイヌナズナ地上部での <i>WRKY33</i> 発現に必要である 馬 笛超^{1,2}・遠藤曉詩^{1,3}・別役恵理子⁴・藤原 徹²・○別役重之⁴・福田裕穂^{1,5} (¹東大院理・²東大院農・³京都先端大総合・⁴龍谷大農・⁵京都先端大バイオ)	612 タマネギべと病卵胞子の卵胞子から分離された糸状菌の分類学的位置付けに関する検討 ○草場基章¹・小野航貴¹・古田明子²・井手洋一² (¹佐賀大農・²佐賀農業セ)
424 アジサイ葉化病ファイトプラズマの分泌タンパク質 HYDE5 の機能解析 ●遠藤 藍¹・石曾根翔子¹・鈴木杏奈¹・前島健作²・山次康幸²・大島研郎¹ (¹法政大植医・²東大院農)	525 イネ複合病害抵抗性遺伝子 <i>BSR1</i> は食害昆虫に対する防御応答にも関与する ○神田恭和^{1,2}・新屋友規³・前田 哲¹・Ivan Galis³・鎌倉高志²・森 昌樹^{1,2} (¹農研機構生物研・²東理大院理工・³岡山大植物研)	613 温度および湿度がキュウリべと病菌の分生子形成に及ぼす影響 ●長濱野乃佳・宇佐見俊行 (千葉大院園)
425 野菜類軟腐病菌 <i>Pectobacterium odoriferum</i> の接触依存性増殖阻害システムは CyaA, および LuxR によって制御される ●磯邊優太・高松由希菜・濱本 宏・大島研郎 (法政大植医)	526 アシベンゾラル S メチル全葉処理による抵抗性関連遺伝子の発現動態について ●小林優大¹・増田 税²・竹下 稔¹ (¹宮大院農工・²北大院農)	614 キュウリ褐斑病の分生子形成に影響を与える因子 ●園家 結・宇佐見俊行 (千葉大院園)
426 座長 中山尊人 ハクサイ軟腐病 (<i>Pectobacterium carotovorum</i> subsp. <i>carotovorum</i>) に対する既知物質 TY2 の防除効果 ●上田陽太・谷口将理・森島 輝・三上 剛・石川成寿 (法政大植物医科)	527 フェアリー化合物によるトマト斑葉細菌病の発病抑制 ●堀川勝行¹・鈴木広人²・竹村太秀³・崔 宰熏^{1,2}・河岸洋和⁴・切岩祥和^{1,2}・平田久笑^{1,2} (¹静大院農・²静大農・³静大院創造・⁴静大グリーン科技研)	615 養液栽培で発生する <i>Pythium aphanidermatum</i> によるハウレンソウ立枯病に対するタケミズ堆肥の抑制効果の可能性 ●川澄留佳¹・藤江隼平²・東條元昭¹ (¹大阪公大院農・²大阪府環農水研)
427 ハクサイ軟腐病菌, トマト青枯病菌, およびイネ白葉枯病菌に対する既知物質 TY2 の作用機序 ○三部貴裕・Shori Taniguchi・大島研郎・石川成寿 (法政大植物医科)	528 座長 能年義輝 富栄養条件下においても植物の病害応答を促進する新規プラントアクティベーターに関する研究 ●中村哲太郎・大澤友紀子・小倉里江子・平塚和之 (横浜国大院環境情報)	616 踏込温床コンポストのトマト萎凋病に対する抑制効果 ●根本大輔¹・岡島 護¹・西條圭祐¹・古谷綾子²・中島雅己¹ (¹茨大院農・²茨大遺伝子)

■第2日目午後

3月28日(月)	Zoom 第2会場	Zoom 第3会場
14:45	229 いもち病菌のゲノム進化における遺伝子水平移行のインパクト 小林奈月・ダンタック・池田健一・ ○中屋敷均（神戸大院農）	327 植物ウイルスの細胞間移行における小さい MOI を再現する細胞感染・細胞間移行シミュレーションモデルの構築 ●平澤花織・安藤杉尋・高橋英樹・宮下脩平（東北大院農）
15:00	230 イネ科植物いもち病菌における抑制的ヒストン修飾 H3K9me3 と H3K27me3 による遺伝子発現制御 ●小林奈月・Thach Dang・Kieu Pham・池田健一・中屋敷均（神戸大院農）	328 キュウリモザイクウイルスの細胞間移行タンパク質による多数決型意思決定はドミナントネガティブ効果で説明される ●小黑まゆ・安藤杉尋・高橋英樹・宮下脩平（東北大院農）
15:15	231 人工基質表面特性がいもち病菌の胞子発芽に与える影響 ●柏木 結 ¹ ・吉村 優 ² ・森垣憲一 ¹ ・中屋敷均 ¹ ・池田健一 ¹ （ ¹ 神大院農・ ² 神大農）	329 キュウリモザイクウイルス接種ササゲ葉における大型局部壊死病斑形成に關与するウイルス因子の解析 ○高橋英樹・霍 開天・安藤杉尋・宮下脩平（東北大院農）
15:30	232 イネ根へのいもち病菌の感染において品種特異的抵抗性は機能しない ●向 子愷・中屋敷均・池田健一（神大院農）	330 キュウリモザイクウイルスに寄生する Y- サテライト RNA がアブラムシを引き寄せ、翅を形成させて自らを運ばせる生存戦略の解明 ●中駄佑介 ¹ ・Wikum Harshana Jayasinghe ^{1,2} ・Hangil Kim ¹ ・増田 税 ¹ （ ¹ 北大院農・ ² University of Peradeniya）
15:45		
16:00	233 座長 宇佐見俊行 Characterization of <i>Pwt2</i> locus reveals a virulence factor of the blast fungus for wheat infection ○Trinh, V. ¹ , Inoue, Y. ² , Chuma, I. ³ , Asuke, S. ¹ , Nakayashiki, H. ¹ , and Tosa, Y. ¹ （ ¹ Grad. School of Agric. Sci., Kobe Univ., ² The Sainsbury Laboratory, ³ Obihiro Univ. of Agri. & Vet. Med.）	331 座長 宮下脩平 Study of cucumber mosaic virus 2b-mediated epigenetic regulation on host genome ○Kim, H., Togawa, Y., and Masuta, C.（北大院農）

Zoom 第4会場	Zoom 第5会場	Zoom 第6会場
428 キュウリ斑点細菌病菌およびトマト斑 葉細菌病菌に対する既知物質 TY2 お よび SL1 の作用機序 ●谷口将理・三部貴裕・大島研郎・石 川成寿（法政大植物医科）	529 天然物由来の抵抗性誘導物質の探索に 関する研究 ●宮越万里子¹・菅原翔美²・中村哲太 郎²・小倉里江子²・平塚和之²（¹横浜 国大理工・²横浜国大院環境情報）	617 座長 中嶋香織 愛知県内で収集されたトマト等果菜類 の灰色かび病に対する QoI 剤及び SDHI 剤等各種薬剤の感受性検定結果 ○堀川英則・石井直樹・松崎聖史（愛 知農総試）
429 座長 岩波 徹 モモセン孔細菌病に対するマンゼブ水 和剤の防除効果 ○七海隆之^{1,2}（¹福島農総セ果樹研・ ²東京農大農）	530 希少糖の植物への作用（59）：d-allose kinase の固定化酵素による A6P 生産 条件の検討 ●島村祐成・松平一志・江島早紀・森 口晃希・加野彰人・佐藤正資・何森 健・ 望月 進・吉原明秀・市村和也・五味 剣二・秋光和也（香川大学）	618 奈良県におけるトマト灰色かび病菌の 薬剤感受性 ○勝真雅大¹・浅野峻介¹・鳥居名実 子²・小林 甫²（¹奈良農研セ・²奈良 北部農業）
430 乾熱消毒法および温湯浸漬法によるゴ マ斑点細菌病に対する効果 ○川上 拓¹・中嶋香織¹・小谷弘哉²・ 近藤和夫²（¹三重農研・²九鬼産業（株））	531 植物にジャスモン酸・サリチル酸双方 の蓄積を誘導する新規抵抗性誘導剤候 補化合物の効果の解析 ●遠矢龍平¹・並木健太郎¹・松本史 織¹・菊地宏樹¹・前田健太郎¹・西田 えり佳¹・北畑信隆^{1,2}・斉藤遊歩¹・中 野正貴¹・舟橋汰樹¹・中澤 裕¹・橋 本研志¹・倉持幸司¹・安部 洋³・高 橋史憲^{3,4}・浅見忠男²・木村成介⁵・朽 津和幸¹（¹東京理科大学理工・²東大院農・ ³理研・⁴東京理科大先進工・⁵京都産 業大）	619 岡山県におけるイチゴ炭疽病菌のアゾ キシストロビン剤及びピリベンカルブ 剤に対する感受性 ○矢尾幸世・金谷寛子・桐野菜美子（岡 山農研）
431 キャベツ黒斑細菌病の防除に資するア ミノ酸の探索 ●坂田七海¹・井野大貴²・石賀貴子³・ 石賀康博³（¹筑波大院生命地球・²筑 波大生命地球・³筑波大生命環境）	532 Mutation on cytochrome b (<i>cyt b</i>) gene conferring azoxystrobin resistance in soybean anthracnose pathogen in Northern Thailand ●Poti, T.¹, Thitla, T.², Imaiam, N.², Nalumpang, S.², and Akimitsu, K.¹ （¹Faculty of Agriculture, Kagawa University, ²Faculty of Agriculture, Chiang Mai University）	620 フルスルファミドの根こぶ病菌に対す る作用性（第1報）休眠孢子発芽時に おける遺伝子発現解析 ○伊藤真一¹・内藤良平²・小原敏明² （¹山口大院・²三井化学アグロ）
432 座長 藤川貴史 OsMED25 によって制御されるイネ白 葉枯病抵抗性に関する研究 ●鈴木 豪・福田麻夏・五味剣二（香 川大農）	533 座長 別役重之 ベントグラスにおける Acibenzolar-S- methyl 植物活力剤に対する生理応答 ○持田恵一^{1,2,3}・清水みなみ¹・南 杏鶴¹・香西雄介¹・奥野健太郎⁴・青 柳岳人⁴（¹理研 CSRS・²長崎大情報デー タ・³横浜市大木原生研・⁴シンジェン タジャパン）	621 フルスルファミドの根こぶ病菌に対す る作用性（第2報）根毛感染過程にお ける阻害作用 ○内藤良平¹・伊藤真一²・小原敏明¹（¹三 井化学アグロ株式会社・²山口大院）
	622 福岡県におけるコムギ黄斑病の収量と 品質への影響 ○鍋谷 霞・菊原賢次・成山秀樹（福 岡農林試）	

■第2日目午後

3月28日(月)	Zoom 第2会場	Zoom 第3会場
16:15	234 いもち病菌非病原力遺伝子 <i>PWT7</i> に対するコムギの抵抗性遺伝子 <i>Rwt7</i> の単離 ○足助聡一郎¹・庭本大輔¹・堀江晶子¹・Analiza Grubanzo Tagle¹・久野裕²・佐藤和広²・土佐幸雄¹ (¹神戸大院農・²岡山大植物研)	332 外被タンパク質遺伝子のヌクレオチド組成とジヌクレオチド組成を改変したキュウリモザイクウイルスの病原性と競合的適応度 小枝亮彦・○望月知史 (大府大院生還)
16:30	235 イネいもち病菌における雌性不稔性遺伝子としての <i>Pro1</i> の同定 ●内田百岳¹・吉田咲希¹・喜多光徹¹・有江 力²・寺岡 徹²・荒添貴之¹・鎌倉高志¹ (¹東理大院理工・²農工大院農)	333 メロン黄化えそウイルス弱毒株のミナミキイロアザミウマ非媒介に関与するアミノ酸変異 ○下元祥史¹・林 一沙¹・沖 友香¹・富高保弘² (¹高知農技セ・²農研機構植防研)
16:45	236 ハウレンソウ萎凋病菌およびダイコン萎黄病菌におけるゲノム編集手法の確立 ●山崎真也¹・新門想太¹・浅井秀太²・有江 力³・荒添貴之¹・鎌倉高志¹ (¹東理大理工・²理研 CSRS・³農工大院農)	334 タバコモザイクウイルス複製タンパク質-ゲノム RNA 間相互作用の解析 ○吉田哲也・石川雅之・石橋和大 (農研機構生物研)
17:00	237 トウモロコシごま葉枯病菌を接種したトウモロコシ葉に誘導される抗菌性物質の経時的变化 ○鶴嶋 鉄¹・森 直樹² (¹阪南大流通・²京大農)	335 A new tetra-segmented splipalmivirus with divided RdRP domains from a Portuguese isolate of <i>Cryphonectria naterciae</i> Sato, Y.¹, Shahi, S.¹, Hisano, S.¹, Cornejo, C.², Rigling, D.², Kondo, H.¹, and ○Suzuki, N.¹ (¹IPSR, Okayama University, ²Swiss Federal Research Institute WSL)
17:15	238 <i>Brassica rapa</i> における新規炭疽病抵抗性遺伝子座の同定 ●田中里実・夏目英哉・高木宏樹・高原浩之 (石川県立大院)	
17:30		

Zoom 第4会場	Zoom 第5会場	Zoom 第6会場
433 イネ NB-LRR 型受容体 Xa1 に依存した白葉枯病抵抗性を活性化する2つの免疫誘導系 ●吉久采花¹・吉村智美¹・清水元樹²・佐藤颯花¹・山口公志¹・川崎 努^{1,3}(¹近大院農・²岩手生工研・³近大アグリ技革研)	534 ベントグラス褐条病に対するアシベンゾラル S- メチルの防除メカニズムについて (2) 坂田七海¹・榊尾俊介²・青柳岳人³・○石賀康博²(¹筑波大院生命地球・²筑波大生命環境・³シンジェンタジャパン)	
434 エチレンシグナリングはイネもみ枯細菌病菌が引き起こす苗腐敗症に対する抵抗性を正に制御する ○石川和也¹・伊藤和江¹・宇津志弘恵¹・小笠原由美子¹・神崎英子¹・竹田 匠¹・寺内良平^{1,2}・阿部 陽¹(¹岩手生工研・²京大農)	535 ナノ粒子技術を活用した新規プラントアクチベーターの開発研究 ○鳴坂義弘¹・飛永恭兵²・山口賢人²・北川隆啓²・斉藤太香雄²・吉岡美樹³・吉岡博文³・鳴坂真理¹(¹岡山生物研・²三洋化成工業(株)・³名大院生農)	623 座長 外側正之 サツマイモ基腐病の病徴を発現した塊根への温湯処理の適用 ○齊藤 晶・荒川祐介(農研機構九州農研)
435 イネもみ枯細菌病菌に感染する新奇 <i>Siphoviridae</i> 科ファージの性状解析 ●阿部香奈²・佐々木稜太¹・金井塚文音¹・宮下脩平¹・安藤杉尋¹・高橋英樹¹(¹東北大院農・²東北大農)	536 新たな農資源ゲットウを利用した新規抗植物ウイルス剤の開発研究 ○鳴坂真理¹・畑中唯史¹・山次康幸²・長岐清孝³・鳴坂義弘¹(¹岡山生物研・²東大院農・³岡大植物研)	624 北海道でセイヨウチャヒキに葉枯病を引き起こす <i>Pyrenophora avenicola</i> (病原追加) 菅原幸哉¹・西本 淳²・○月星隆雄¹(¹農研機構畜産研・²(株)カネコ種苗)
436 座長 竹本大吾 シロイヌナズナ PUB25 及び PUB26 は MEKK1 に直接結合し、MEKK1 以降の経路と病害抵抗性を正に制御する ●永井鈴奈¹・小林孝博¹・久保佑太¹・樋尾隼平¹・溝口 剛²・高橋史憲^{3,4}・篠崎一雄⁴・白須 賢⁴・市村和也¹(¹香大院農・²ICU 教養自然科学・³東京理科大先端工・⁴理研 CSRS)	537 新規殺菌剤トルプロカルブに関する研究(第18報) — トマトに対する抵抗性誘導活性 — ○萩原寛¹・福丸文香²・平塚和之²・小原敏明¹(¹三井化学アグロ・²横浜国大院環境情報)	625 水稻直播栽培において苗立ち不良を起こした苗から分離された <i>Rhizoctonia</i> 属菌 (病原追加) ○戸田 武¹・下野裕之²・藤 晋一¹(¹秋田県大生資・²岩手大農)
437 トマト斑葉細菌病原菌に対する病害抵抗性を正に制御するシロイヌナズナ MKK3 の上流因子 MTK1 の機能解析 ●新谷光雄¹・横田航平¹・永田雅也¹・松村美里¹・中村雅子¹・瀧澤 香²・松岡大介³・秋光和也¹・白須 賢²・市村和也¹(¹香大院農・²理研 CSRS・³甲子園大栄養)	538 ユズの炭疽病(貯蔵中の果皮陥没症状)防除における機能性展着剤の効果 ○沖 友香¹・杉本達也²・森田泰彰¹(¹高知農技セ・²高知果樹試)	626 <i>Venturia oleaginea</i> によるオリーブピーコック黒星病(新称)の発生 ○氏家章雄¹・川西健児¹・小野壮一郎¹・楠 幹生¹・大田将禎²・藤川貴史²(¹香川農試病害虫防除所・²農研機構植防研)
		627 DRC 診断によるアブラナ科野菜根こぶ病に対する土壌の発病ポテンシャル評価と土壌理化学性の関係 ○北林奨也¹・福永亜矢子¹・川口 章¹・川上 颯²・角野晶大³・大場淳司⁴・久保周子⁵・原 康明⁶・有馬秀和⁷・中嶋香織⁸・山下陽子⁹・坂本美沙¹⁰・吉田重信¹¹(¹農研機構西農研・²農研機構北農研・³道総研中央農試・⁴宮城農園研・⁵千葉農林総研暖地・⁶神奈川農セ・⁷富山農総技セ園研・⁸三重農研・⁹香川農試・¹⁰熊本農研セ・¹¹農研機構植防研)

■第3日目午前

3月29日(火)	Zoom 第2会場	Zoom 第3会場
9:00	239 座長 曾根輝雄 青色花色決定因子 F3'5'H によるリンドウの糸状菌耐性機構の解析 ○John Jewish Dominguez¹・舘田知佳^{1,2}・岩井摩利¹・阿部善子¹・小原和恵¹・西原昌宏¹・阿部 陽¹・松浦恭和³・平山隆志³・藤崎恒喜¹ (¹岩手生工研・²奈良先端大・³岡大)	336 座長 八重樫元 パン酵母細胞を利用したアスパラガス疫病菌に感染するエンドルナウイルスの機能解析 ●作田康平・内田景子・福原敏行・植松清次・岡田 亮・森山裕充 (農工大院農)
9:15	240 OsRac1 は, PRR OsCERK1 と NLR Pit を含む 2 つの免疫受容体複合体を形成する 赤松 明²・藤原正幸³・濱田 聡⁴・島本 功⁴・○河野洋治¹ (¹岡山大植物研・²関西学院大・³ヤンマー・⁴奈良先端大)	337 Colletotrichum fructicola mitovirus 1 のミトコンドリア内局在性の調査 ●北浦健太郎¹・岡田 亮²・小河原孝司²・福原敏行¹・森山裕充¹ (¹農工大院連農・²茨城農総セ園研)
9:30	241 タバコのサリチル酸合成に相関して発現するカルモジュリン様遺伝子の機能解析 ●栗原里帆・加藤新平 (信大院農)	338 ナシ黒斑病菌 N18 株に混合感染する 2 種のマイコウイルスの粒子構成蛋白質及び相互作用の解析 ●丸山洋平¹・千葉悠斗²・浦山俊一²・萩原大祐²・福原敏行¹・森山裕充¹ (¹農工大院農・²筑波大院生命環境)
9:45	242 サリチル酸合成に関連する HSR201 の新規ペルオキシソーム移行シグナルの同定 ●小寺 由・山本皓也・加藤新平 (信大院農)	339 出芽酵母で発現したマイコウイルス MoCV1-A 外被タンパク質の細胞内凝集体の解析 ●林 勇歩・岩崎桃子・福原敏行・森山裕充 (農工大院農)
10:00	243 Diaporthe 属菌を中心とした植物病原微生物の分類・同定支援システムの情報基盤拡充への取組 ○月居佳史¹・佐藤 衛² (¹農研機構植防研・²農研機構資源研)	340 Fusarium boothii large flexivirus 1 の defective RNA による宿主赤カビ病菌病原性の抑制 ●佐藤友理沙¹・水谷行善¹・菊地陽菜²・神谷萌々子¹・上坂一馬³・Shika Van¹・佐藤育男¹・竹本大吾¹・近藤秀樹⁴・須賀晴久⁵・鈴木信弘⁴・千葉壮太郎¹ (¹名大院生農・²岐大応生・³名大遺伝子・⁴岡山大植物研・⁵岐大 iGCORE)
10:15		
10:30	244 座長 中島千晴 Pleiochaeta setosa によるキングサリ葉枯病 (新称) ●加藤誠司¹・中山喜一¹・山城 都²・廣岡裕吏¹ (¹法政大植物医科・²栃木農試)	341 座長 海道真典 オオバコモザイクウイルスの triple gene block protein 1 の RNAサイレンシングサブレッサー活性はウイルスの長距離移行に寄与する 針山 梓¹・根津 修²・有江 力¹・○小松 健¹ (¹農工大院農・²丸和バイオケミカル)

Zoom 第4会場	Zoom 第5会場	Zoom 第6会場
	539 座長 西村文宏 高知県内で発生しているナス黒枯病菌のピリベンカルブおよびイソピラザム感受性 ○森實祐香・下元祥史（高知農技セ） 540 新規殺菌剤キノプロール®（ミギワ®）に関する研究（第2報）ーキノプロール®水和剤の果樹病害に対する防除効果ー ○西野茂樹・藤井孝行・西村 聡・荻野智和（日本曹達株式会社） 541 新規殺菌剤プロチオコナゾールに関する研究（第1報） ○内田 聡・宮永智悠・波多野広幸（バイエルクロップサイエンス株式会社） 542 ピジフルメトフェン（ミラビス®フロアブル）に関する研究（2）コムギおよびオオムギ赤かび病に対する効果 ○三反崎拓也・荻野孝典・小梨伸隆・谷口しづく・中島嘉秀・平田哲也（シージェンタジャパン） 543 カンキツ黒点病防除におけるパラフィン系展着剤を加用したマンゼブ剤（使用基準上限濃度）の耐雨性 ○武田知明（和歌山果試）	628 座長 草場基章 テンサイ黒根病・テンサイ根腐病検診用 LAMP 法の開発 ○小田一登・大竹 勝・内野浩克（日甜総研） 629 空撮画像を活用したショウガ土壌病害発病株の早期発見技術の検討 ○岡美佐子¹・山崎淳紀¹・栗原 徹²・下元祥史¹（¹高知農技セ・²高知工科大） 630 ハクサイ根こぶ病の発病と土壌物理化学性および休眠胞子密度との関係 ○中嶋香織・川上 拓・西野 実（三重農研） 631 コシヒカリマルチラインを侵害するイネいもち病菌レースの分布状況と SSR マーカーによる遺伝解析 ○堀 武志¹・渡部真帆¹・松澤清二郎²・黒田智久³・石川浩司⁴・藤 晋一⁵（¹新潟農総研作物研・²村上振興局・³新潟農総研園芸研・⁴新潟防除所・⁵秋田県立大生資） 632 香川県で栽培されるキウイフルーツ（<i>Actinidia chinensis</i> 種）における炭疽病の発生 ○生咲 巖¹・Poti Teeranai²・秋光和也²（¹香川府中果樹研・²香川大農）
	544 座長 武田知明 新規殺菌剤セルカディス®Dフロアブルに関する研究：有効成分フルキサピロキサドとジチアノンとの相乗効果 ○片山博文・伊藤 学・加藤良晃（BASF ジャパン）	633 座長 久保周子 ダイズのしわ粒発生への黒根腐病の影響 ○越智 直^{1,2}・三室元気³・岸 茂樹²（¹農研機構植防研・²農研機構農情研・³富山農総技セ）

■第3日目午前

3月29日(火)	Zoom 第2会場	Zoom 第3会場
10:45	245 <i>Neocosmospora ipomoeae</i> によるクレオメ立枯病（新称） ●大塚峻祐¹・山崎淳紀²・下元祥史²・廣岡裕吏¹（¹法政大植物医科・²高知農技セ）	342 Phloem translocation of PIAMV to the basal stem is not essential for ASM-mediated delay of systemic infection to upper leaves ●Fawzia, N.¹, Sasaki, N.², Arie, T.^{1,2}, and Komatsu, K.^{1,2}（¹農工大院農・²農工大 GIR）
11:00	246 栃木県のナシ栽培圃場および貯蔵時に発生したナシ汚果病 ●柴田紗帆¹・山城 都²・山崎周一郎³・中山喜一¹・廣岡裕吏¹（¹法政大植物医科・²栃木農試・³栃木県庁）	343 RNA-seq を用いたウイルス誘導性の壊死症状に関わる宿主因子の探索 ●新井和菜・Hamim Islam・齊藤大幹・有江 力・小松 健（農工大院農）
11:15	247 <i>Pythium polymastum</i> によるレタス立枯病（病原追加） ○楠 幹生¹・日恵野綾香²・景山幸二²（¹香川農試病害虫防除所・²岐大流域研セ）	344 キュウリモザイクウイルスベガ系統の外被タンパク質とフェレドキシンⅠの相互作用の調査 ●井口宏紀・集 健太・望月知史（大阪府大院生環）
11:30	248 <i>Phytophthora kelmanii</i> によるマンネンロウ（ローズマリー）とヤクヨウサルビア（コモンセージ）に発生した疫病（新称） ○植松清次¹・日恵野綾香²・大坪佳代子²・久保周子³・田中千華⁴・森山裕充¹・景山幸二²（¹農工大農・²岐阜大流域圏科学・³千葉農林総研暖地・⁴千葉県庁）	345 リンゴクロロティックリーフスポットウイルスリンゴ輪状さび果病分離株の感染性 cDNA クローンの構築 ●中嶋 瞳・磯貝雅道・八重樫元（岩手大院農）
11:45	249 日本産ニラさび病菌の分類学的所属の再検討 ○埋橋志穂美¹・佐藤 衛¹・柿瀧 真²（¹農研機構資源研・²筑波大）	346 ムギ類萎縮ウイルスの蛍光タンパク質発現ベクター化と接種法の検討 ●福島千夏¹・王 蔚芹¹・中澤佳子²・加藤常夫²・煉谷裕太郎¹・夏秋知英¹・西川尚志¹（¹宇都宮大院・²栃木農試）

Zoom 第4会場	Zoom 第5会場	Zoom 第6会場
	545 ピラジンカルボキサミド系殺菌剤ピラジフルミド（パレード®）に関する研究（第15報）SDHI 耐性ナスすすかび病に対する防除効果 ○中村貴弘・黒川典美・畑 和秀・長谷部元宏・山下真生（日本農薬（株）） 546 QoI 剤耐性ブドウ黒とう病菌の初確認 ○横澤志織¹・石井英夫²（¹長野果樹試・²筑波大生命環境） 547 秋冬ネギ栽培におけるネギ黒腐菌核病に対する土壌消毒とピラジフルミド水和剤を組み合わせた防除効果 ○大川佳織・高橋真秀・町田剛史・横山とも子・中村耕土（千葉農林総研） 548 サトイモ疫病に対するアゾキシストロビン・メタラキシル M 粒剤の生育期散布による防除効果と収量 ○中田菜々子¹・鐘ヶ江良彦²・大谷徹¹（¹千葉農林総研・²千葉君津農事）	634 温度と濡れ時間、および湿度がトマトすすかび病の感染に及ぼす影響 ○清水佐知子（広島総研農技セ） 635 施設栽培トマトにおけるホモプシス茎枯病の発病特性 ○山崎淳紀¹・森實祐香¹・原 隆夫²・下元祥史¹（¹高知農技セ・²須崎農振セ高南農改） 636 簡易被覆栽培におけるブドウ晩腐病菌の飛散消長 ○苧坂大樹・金谷寛子（岡山農研） 637 ハウス外周辺植物に潜在するマンゴー炭疽病菌の種構成およびそれら植物の伝染源としての可能性 ○澤岬哲也・安次富厚・河野伸二・花ヶ崎敬資（沖縄農研セ）

■第3日目午後

3月29日(火)	Zoom 第2会場	Zoom 第3会場
13:00	250 座長 鬼頭英樹 Characterization of Blue Mold <i>Penicillium</i> Species Isolated from <i>Dioscorea polystachya</i> in Hokkaido, Japan ●Uy, R.¹, Kayamori, M.², and Nakashima, C.¹ (¹Mie Univ., ²Tokachi Agr. Exp. Stn., HRO)	347 座長 望月知史 日本で発生する3種のフロウウイルスのコムギへの感染性とRNA2ゲノムの関与 ○大木健広¹・前島秀和²・青木恵美子^{3,4} (¹農研機構北農研・²長野農試・³農研機構作物研・⁴現：農水省技会)
13:15	251 東京農工大学で栽培しているマコモダケから分離した黒穂菌の性状解析 ●千明由佳¹・眞下孝治²・沼本 穂³・田中茂幸³・小松 健¹・佐々木信光¹・本林 隆² (¹農工大院農・²農工大 FS センター・³摂南大農)	348 リンゴ奇形果病罹病樹由来リンゴステムピットウィルス変異株の感染性 cDNA クロンの作出 ○八重樫元^{1,3}・伊藤 伝²・Noriko Yamagishi³・吉川信幸³・磯貝雅道¹ (¹岩手大農・²農研機構果樹茶盛岡・³岩手大 AIC)
13:30	252 Botrytis cinerea 弱病原性株におけるカタラーゼ遺伝子の発現解析 ●佐藤菜々実¹・古谷綾子^{1,2}・中島雅己¹ (¹茨大院農・²茨大遺伝子)	349 ダリアから分離された DNA ウイルスの感染性クローン構築と感染率の品種間差異 山本大稀・西川尚志・夏秋知英・○煉谷裕太郎 (宇都宮大院)
13:45	253 菌寄生菌 <i>Dicyma pulvinata</i> のゲノム上にコードされる Nep1 様タンパク質の機能解析 ○幸田真梨子¹・須志田浩稔²・ファナニムチャ¹・前田和弥¹・飯田祐一郎¹ (¹摂南大農・²農研機構食品研)	
14:00	254 アイルランドで発生したコムギ黒さび病菌のトランスクリプトームデータを用いた系統解析 ○津島綾子¹・Clare M. Lewis¹・Kerstin Flath²・Stephen Kildea³・Diane G.o. Saunders¹ (¹John Innes Centre・²Julius-Kuehn Institute・³Teagasc)	350 座長 磯貝雅道 トマト斑紋モザイクウイルスの病原性と宿主域 ○今 辰哉・藤 晋一 (秋田県大生資)
14:15		351 リンドウの新規病原ウイルス、シクテウォーターボーンウイルスの宿主適応機構の解析 ○藤崎恒喜¹・岩井摩利¹・阿部善子¹・John Dominguez¹・藤永真史²・三瀬和之³ (¹岩手生工研・²長野野花試・³京大院農)

Zoom 第4会場	Zoom 第5会場	Zoom 第6会場
	549 座長 内橋嘉一 亜リン酸資材を加用した防除体系のナシ黒星病に対する防除効果 ○山田高之・米村善栄（鳥取園試） 550 リンゴ黒星病の CYP51A1 変異株に対する各種 DMI 剤の防除効果 ○平山和幸（青森産技セリんご研） 551 長野県におけるイネばか苗病菌の主要な種子消毒剤に対する感受性 ○中島宏和¹・内田英史¹・萬田 等²・山下 亨³（¹長野農試・²長野南試・³長野植防） 552 鳥取県において分離されたダイズ紫斑病菌のアゾキシストロビン感受性低下 ○宇山啓太・長谷川優（鳥取農試） 553 ナシ黒星病菌におけるアゾキシストロビン感受性の違いと <i>cytb</i> 遺伝子のシーケンス ○石井英夫¹・渡邊久能²・佐藤 裕³・高橋友樹⁴・菊原賢次⁵・中尾茂夫⁶・山岡裕一¹（¹筑波大・²大分農水研・³鹿角地域振興局・⁴秋田果樹試・⁵福岡農林試・⁶前 JA 大分ひた）	

■第3日目午後

3月29日(火)	Zoom 第2会場	Zoom 第3会場
14:30	255 座長 今崎伊織 福岡県で発生したナシ炭疽病から分離された <i>Colletotrichum</i> 属菌の同定と薬剤感受性 ○菊原賢次（福岡農林試）	352 RAD-seq による小ギクのキク矮化ウイルス抵抗性の連鎖解析 ○浅野峻介¹・平山喜彦²・勝真雅太¹・辻本直樹¹・松下陽介³・白澤健太⁴・磯部祥子⁴（¹奈良農研セ・²龍谷大農・³農研機構植防研・⁴かずさ DNA 研）
14:45	256 ポジネガセレクションマーカーを活用したイネばか苗病菌 <i>Fusarium fujikuroi</i> の KU70 の遺伝子編集 ●坂原優里¹・Fang Jing Li²・木村真³・清水将文¹・景山幸二⁴・須賀晴久⁵（¹岐大応生・²岐大院連農・³名大院生命農・⁴岐大流域研セ・⁵岐大iGCORE）	353 トマトの宿主遺伝子の潜性変異が与えるウイルス抵抗性について ○新子泰規¹・川久保彩花²・Wikum Harshana Jayasinghe²・Joon Kwon²・Hangil Kim²・山田哲也²・増田 税²・中原健二²（¹キッコーマン・²北大院農）
15:00	257 Amino acid substitutions at codon 312 and 511 in CYP51B changed prochloraz sensitivity in <i>Fusarium fujikuroi</i> ●Li, F.J.¹, Sakahara, Y.², Matsumoto, S.², Kimura, M.³, Fuji, S.⁴, Shimizu, M.², Kageyama, K.⁵, and Suga, H.⁶（¹UGSAS Gifu Univ., ²Fac. Appl. Biol. Sci. Gifu Univ., ³Grad. Sch. Bio. Agr. Sci., Nagoya Univ., ⁴Fac. Biores. Sci. Akita Pref. Univ., ⁵River Basin Res. Center Gifu Univ., ⁶iGCORE, Gifu Univ.）	
15:15	258 ナシ黒星病に対する各種 SDHI 剤およびキノプロール水和剤の果実における防除効果 ○藤田剛輝（福島農総セ果樹研）	
15:30	259 静岡県におけるチャ炭疽病菌および輪斑病菌の薬剤感受性検定 ○外側正之¹・鈴木幹彦²・芳賀 一²（¹静岡農林環境専門大・²静岡防除所）	

Zoom 第4会場	Zoom 第5会場	Zoom 第6会場